

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第一小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	三委員会を定例化し、学力向上・生徒指導・体力向上に対して、共通理解を図り、共通行動ができる組織体としての学校運営がなされた。職員会議では三委員会より毎回報告が行われ、共通理解が図れた。この取り組みの成果として、学校のチーム力が向上し、職員の参画意識の向上が図れた。	A	職員の皆様は、目標を明確にし、学年・学校を通じて協力し合い、意欲的に取り組んでいると感じます。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	危険箇所の早期発見・早期対応を目指し、市教委と連携して研修を積極的に行った。また、定期的な安全点検を中心に、安全意識をもちながら、児童の学習・生活の安全を確保してきた。さらに、いじめ防止基本方針の遂行のため、毎月12日をにこにこの日として児童理解を深め、心の安心に努めた。防災訓練では、主任を中心に不審者対応の研修、予告なしの緊急地震速報訓練等、児童の安全意識を多方面で育成してきた。	A	普段の防災訓練などを見てもしっかり取り組んでいるように感じます。校舎が古くても危険箇所などすぐに改善していただいております。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	全国学力学習状況調査や埼玉県学力学習状況調査において、本校は前年度と比較若干成績が伸びた状況となった。これは職員の「子どもたちを伸ばそう」という意欲や実践の表れとしてとらえている。この職員の意識を更に高め、意図的、計画的に組織で取り組み、子どもたちの学力を高めることが我々の使命ととらえている。今後は、児童の学力の更なる向上を図るため家庭と協力し児童の育成に努めたい。	A	宿題の量なども考えて出されているように感じます。今後の児童の学力向上に向け、さらに研鑽と、修養に励み努力を重ねてほしいと願います。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	教師の授業力向上のため、学力向上委員会が中心となり、本校の課題を分析し、その解決策の検討を図っている。そこでは体験活動・言語活動の充実を図ること、ICT機器の効果的な活用法、校内研修の推進等、多岐にわたり指導法の改善が図られた。また、各種研修会へ参加し、新たな指導法を学ぶとともにその指導法を職員で共有できるよう努めている。このような取り組みを通じ、授業改善に努めている。	A	児童の学力向上をめざし、共通の認識を持ち授業改善に努めている点は、評価できます。これからも児童の実態に合わせて、体験活動や言語活動の充実を一層励んでほしいと願います。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	規律ある態度の育成について、本校の児童は学校の決まり「みんなの約束」を9割以上の児童が学校の決まりをまもっている。もちろんそのために職員は子どもたちに「なぜ決まりをまもることが大切なのか」「将来大人になり社会の一員として生活する際ルールを守ることが大切である」等発達段階に応じて指導をしている。しかし全児童がそのことを理解し行動するまでには至っていない。これからも家庭と学校で協力し合い望ましい子どもたちの育成に努めていこうと考えている。	A	学校の決まりなど大多数の子どもが守ろうとしている点はよいが、思春期に入る高学年の指導にも少し力を注いでほしいと考えます。今後も継続しながら、家庭と連携を図り児童の育成に努めてください。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	生徒指導委員会を中心に、生活目標を設定し、児童の基本的な生活習慣の定着を図ってきた。朝一中校区小中連携推進事業を通じ、中学生による「あいさつ運動」と児童会の挨拶運動を連動して取り組んだ。また、PTA校外部のあいさつ運動(登校指導)を行ってきたことで、少しずつであるが「あいさつ」が浸透してきている。さらに、一小「学びのための5か条」と「あさかナンバーワンスクール推進計画の5つの自慢」の徹底をおとして、返事、姿勢、言葉使いなどを全クラスで日々継続指導している。	A	以前に比べると挨拶ができる子供たちが増えてきたように感じます。今後も「あいさつ運動」を継続して取り組んでほしいと感じます。あいさつができるようになれば、5分前行動などでもできるようになると感じています。頑張ってください。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	本校児童の実態調査から、基礎体力が低い児童の実態が明確になった。その解決のため、思考と技能を連動させ体力の向上を図ることを本校の研究主題に掲げ児童の体力向上に努めている。その一例として、本校の課題であった「体力」に対しては補強運動としてシャドゥピッチングを取り入れ、昼休みに運動教室を実施し、組織的・計画的に児童の育成に努めた。今後は運動委員による活動「朝霞一小オリンピック」を取り入れ、意欲的に外遊びに取り組む児童の育成に努める。	A	昼休みなど、子どもたちが外で遊ぶ姿をよく見かけます。又体育の時間も元気に活動する様子を見ます。これからも工夫を重ね運動が苦手な子どもでも参加できる内容を増やしてほしいと願います。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	体力向上推進委員会を中心に、重点課題を設定し、授業改善として、体育授業内での統一運動を取り入れた。職員研修の実施、学校保健委員会での家庭への啓発、運動教室の実施と内外の視点から向上策を講じた。これらの取組の結果、二年間で新体力テストにおいて男子は48項目中8項目が向上、女子においては6項目の向上が見られた。	A	体育研究の成果が、少しずつ表れてきているように思います。これからも学校全体をあげて、体育の研究に邁進してほしいと思います。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	学期初めと終わりの授業参観・懇談会、秋の学校公開、夏休期中の個別面談を実施した。(参観5回・懇談5回)他にも学年・学級通信、電話、連絡帳、面談等、家庭と連絡をとり連携を図ってきた。校内廊下の授業や行事の写真掲示、校長講話等で学校経営方針に説明や見える化を図ってきた。年間3回の学校保健委員会では、体力向上・健康管理などの講習を行い、保護者への啓発活動を推進した。今後も保護者・地域の皆様と協力し合い、子どもたちの育成に努めていく。	A	学校公開・授業参観など良く実施していると思います。又地域の行事などにも子どもたちや保護者の方がよく参加されています。今後も学校と地域で連携して子どもたちを育成できればと考えています。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	学期ごとに一斉下校を実施し、通学路の安全を確認した。PTA校外部の校区内補導の計画的な実施やなしこメール・ホームページでの緊急情報の配信など情報提供や危険防止の活動を推進した。なでしこ応援隊において、地域見回り活動の協力者の募集や通学路の安全確保のための登校指導や下校指導の協力をお願いしました。今後も学校と地域で協力し合い子どもたちをまもられるよう協力願います。	A	不審者対応では情報が速く地域・保護者と連携しパトロールができています。今後も協力して児童の安全をともに守っていかうと思います。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満